

## 住宅や神社仏閣 丸ごと移動

# 「曳家」一筋に50年以上



曳家工事の優れた技術で「現代の名工」に選ばれた川島一男さん。後ろの曳家用レールは新幹線に使われていたもの＝土浦市中貫

## 土浦の川島さん 現代の名工に

土浦市中貫の建築とび工、川島一男さん(71)は、建物を丸ごと持ち上げて移動させる「曳家工事」を50年以上にわたり手がけてきた。優れた技術力が評価され、卓越した技能者を表彰する「現代の名工」に選ばれた。

曳家工事は、道路拡張などで移動が必要な住宅や神社仏閣を、そのままの姿で移動させる。建物の下にレールを敷き、ジャッキで持ち上げてローラーを挟んで動かす。準備から移動完了まで2カ月ほどかかる。

建物の重さは30〜50ト、移動距離は数十メートルから100メートル以上とさまざま。建物

の構造をよく調べ、どこに大きな力がかかるか見極めて作業の段取りを決める。二つとして同じ現場はない。経験と自信がなければ引き受けられません」

18歳のとき父親が経営する工務店に務め、「仕事は見て覚える」で育てられた。自信を持って仕事ができるようになるまで、10年以上の経験を積んだ。

これまで200棟以上を請け負ってきた。とりわけ印象に残っているのが、東日本大震災で液状化の被害に遭った水戸市のそば店。地盤沈下で傾いた建物を、新しい土台まで約30メートル動かした。「店主から『壊れる

寸前だったのに、よく移動してくれた。どうもありがとう』と感謝されたことは忘れられません」

現場では縁の下で泥まみれになる。楽な仕事ではないが、同じ仕事に就いた2人の息子と一緒に今も現場で汗を流す。ここ10年ほどは古民家再生の仕事も増えてきたという。

高校生の職場体験を受け入れるなど技術の伝承にも力を注ぐ。「移した建物が新しい土台にびったり収まったときの『やった！』という達成感は、始めた頃と変わらない。こんな仕事があることを若い人たちに伝えていきたい」(谷口哲雄)